「中学校との連携した会計教育の取組」

青森県立三沢商業高等学校

本校では社会の実態や生徒のニーズに対応し、毎年地域と連携した事業に取り組んでいる。昨年度は課題研究の一環として中学生に対し簿記教室を実施し、中学生や保護者に興味を示してもらう活動を行った。昨年度、中学校から企業会計の学習が開始となったことから、三沢市教育委員会と連携してさらに中学校の学習支援を進めたいと考えた。

現在、青森県立三沢商業高等学校はネット試験会場となって3年目。今後、日 商簿記検定初級を受験できるように登録し、中学生および興味のある保護者等 にも受験機会を提供したいと考えている。



人は、会社に限らず、学校、病院、役所、政党などいろいろな「組織」で活動する。その組織活動は、金集め、人材集め、調査、宣伝、製造、開発、営業など、活動をする際に「資金」は必ずつきまとう。

「会計」は、「勘定科目」という「道具」を使って、複雑多岐にわたる組織活動を「分類・整理する手続き」である。「会計」の手続きで整理された、複雑多岐にわたる組織活動は、わかりやすくまとめられ、将来のための判断に使われる。「会計」の大切さは、「数字の作り方」ではなく、「作られた数字の意味を理解して、判断に活かす」ことである。

中学校社会科の新学習指導要領には、適正な「会計情報」の提供や活用により、 企業経営が成立することを理解させるよう求めてられている。また高校で新た に設けられた必履修科目「公共」でも、「企業会計」「会計情報」に触れながら、 経営への関心を高める指導を求められている。

以上のことから本校は、中学生に対し早期から「会計」に興味をもってもらえるような活動や学習支援を通して、将来は地域社会に貢献できる人財の育成につなげていきたいと考えているため、「中学校との連携した会計教育の取組」を推進する。

三沢市立堀口中学校

東奥日報 R5.7.27

で「企業の経営状態を客観 て「企業の経営状態を客観 のに判断できる世界共通の 言語」と解説。会社の体力 を測る「物差し」としての 重要性を説いた。 中学校の学習指導要領に 企業会計の学習が盛り込ま れたことを受け、日本商業 れたことを受け、日本商業



会計「世界共通言語」会計「世界共通言語」会計「世界共通言語」短口中で講演公認会計士で中央大学経公認会計士で中央大学経公認会計士で中央大学経公認会計士で中央大学経公認会計工で中央大学経

デーリー東北 R5. 7. 21

「会計」で社会の仕組み学ぶ



振興会・小島さん 堀口中で講演日本 商業教育 堀口中で講演して講演。同校3年生が企業活動で重要となる会計処理して講演。同校3年生が企業活動で重要となる会計処理

三沢市立堀口中(太田湾之校長」三沢市立堀口中(太田湾之校長」三沢市立堀口中(太田湾之校長」「大田湾東谷」「日本商業教育振興会の小島」「大田湾本が「ビジネス社会で必要な企業言語とは」と、「東京を表した。

おいらせ町立下田中学校



三沢市立第二中学校



おいらせ町立木ノ下中学校



東北町立東北中学校

